

令和2年10月(2020年) No. 658

定員の約2倍の応募

—第24回大阪アマチュア映像祭—

新型コロナウイルス禍のもと、今年の映像発表会のあり方が様変わりになりました。今回24回目の大阪アマチュア映像祭は、大阪中央図書館と、わが大阪アマチュア映像連盟との共催事業ですが、コロナ禍の為、定員が3分の1以下の90名という厳しい制限が付けられました。このため止む無く事前申し込み制として定員より多い申し込みがあった場合は抽選制と致しました。このため今までにない大変な手間がかかり費用もかさみました。来年はワクチンも打てるようになって、このような抽選によって入場者を絞らざるを得ないと、いうことにならないとは思いますが、貴重な経験と今後への教訓となりました。

結果的に入場希望者は定員の約2倍となり、抽選ということになりました。コロナに恐れ、外出したまらない方が多く定員に満たないのではないかとの思いもありましたが杞憂に終わり、一面ほっとしている気持ちもあります。落選者の方には11月28日のOMCフェスティバルには是非お越し頂きたいとご案内差し上げることにしています。

OMC映像フェスティバルは、会場の広い朝日生命ホールで開催しますので、申込制ではなくむしろ60周年に相応しい盛会をと願っています。又、映画館など、観客が大声を出さないホール等では、定員一杯の入場が可能となったとの上監督官庁からの通達があったと、朝日生命ホール側からも連絡が来ております。もちろんマスクの着用や体温測定、受付ロビーでの「3密」対策は必要ですので、会員諸氏のご協力をお願いするとともに、観客動員の方もどうぞよろしく(合原)。

10月例会のお知らせ

- 第2例会はありません
- 通常例会は24日(第4土曜日)18時より、いつもの例会会場にて。

旧作でも結構です、作品をお持ちください。楽しいひと時を過ごしましょう。

※「大阪アマチュア映像祭」連絡事項

参加希望で申し込まれたOMC会員さんにはハガキでの返信はしませんので、当日世話役としてご協力よろしくお願いします。(岡本)

映像趣味人、さて、どう過ごしてきたか

会長 合原一夫

■定着してきた新生活様式

新型コロナウイルス感染症が蔓延し出して、新聞やテレビでしつこくマスク着用、「3密」対策をというようになり、私たちの生活も、すっかり意識して行動するようになってきた。マスク着用、手指消毒手洗い等、新しい生活様式だ。電車の中でもマスクをしていない人は探すほど、皆マスク姿だし、公園で運動している人も半数以上はマスク姿。スーパーに行ったら手指消毒、レジ前の間隔をあけた行列など今や当たり前になっている。

私はずちのマンションの老人会のお世話をしている立場ですが、一時、すべての行事が、緊急事態宣言で中止しましたが、今やっと復活したところ。もちろんマスク着用は原則であるが。

■緊急事態宣言直前に撮影敢行

本年2月下旬、コロナで外国人観光客が来なくなり、出歩く人も激減したとの報道で、今、これを記録しておかなければと、ビデオカメラをもって大阪の繁華街難波へ撮影敢行。なるほど、あの賑やかな道頓堀限界がシーンとしていてまるで別世界。昼食時に食堂へ入ったら客は私のほか1人しかいなかった。近くの商店はシャッターが下りていて臨時休業の張り紙が。近くにだれもいないので「3密」を避けながらの撮影ができました。

午後は南海電車に乗って関西国際空港へ。車内にはマスク姿の客数人のみ。空港もほとんど客が居らず、いつもは賑わっている出国カウンター付近もガラーンとして海外旅行した時のあの混雑ぶりを改めて思い出していた。出発時刻表が皆中止の掲示が出ているシーン等、今でしか取れないシーンかも知れないとシャッターを押していた。

■撮った記録をどう生かすか、頭が重い

ステイホームを言われているときに、こうした映像を作品にしたら、皆からどう思われるか、考えるとまとめる気がしない。

いずれコロナの薬が出来て治まったらあの時はこうだったと言える時代が来るのではないかと、今のところはお蔵入りである。9月現在、街の賑わいも、空港の活性化もやや取り戻しつつあるようだ。

■今年の桜は寂しくも美しかった

近くの公園の桜は毎年美しく咲き、ブルーシートを敷いた花見客で賑わう。ところが今年は、コロナで花見客もまばらで人の姿がほとんどなく、桜の花だけがやけに美しかった。こういう花見客のいない満開の花見時、というのも珍しいのではないかと、三脚据えてじっくりと撮影した。昨年の老人会の花見の縁宴のカットを生かして将来作品になるかもしれない。いまのところこれもお蔵入りである。桜の木の近くでマスク姿の親子がキャッチボールを楽しんでいた光景は、確かに絵になるコロナ時の風景であった。

■再開した例会で楽しむ

非常事態宣言で例会が閉鎖されたため4月5月の例会は休会となったが、さすがに3ヶ月目の6月は、会場もOKが出たので再会することが出来た。もちろん「3密」を避けながら、又ソーシャルディスタンスを取りながらの例会となったが、やはり人と会いおしゃべりすることが楽しい。

そう長くない残りの人生である。コロナを怖れつつも、それを避けつつ、一日一日を大切に生きたいものである。そのためにも例会は大切にしたい。仲間と癒しあう為にも。

■テープ作品のDVD化

8ミリ時代からDVテープ時代まで、まだ多くのテープ作品がある。このコロナ時代の暇なときにテープ作品をDVDやBDに転換しておこうと、作業を進めているが、テープの音質が劣化していて録音からやり直し等、課題も多い。だが、好きな道は手間暇惜みせず、やってやれるものである。早くコロナが終わることを記念しつつ。

■予 告：11月例会は OMC フェスティバル開催日の28日と重なりますので、

1週間早めて11月24日(第3土曜日)となりますのでお間違えの無いようお願いいたします。

9月通常例会レポート

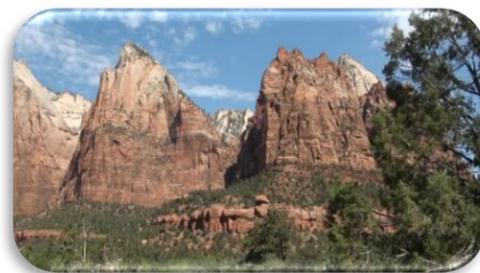
9月通常例会は第4土曜日26日18時より難波市民学習センターにて開催、14名の参加者と9本の作品が出品され、まずまずの例会となった。コロナ禍はまだ続いているせいか、例会場の学習センターは空室多く、換気の為、ドアを開けたままプロジェクターの音を出してもどこからも苦情は来ず、安心して例会を

楽しめた。最も全員マスク姿で、長テーブルに一人というソーシャルディスタンスの環境下の例会だが、やはり皆と一緒に楽しめるのがいい。今月の司会は岡本氏のもと上映が始まった。

■運営担当：司会 岡本、書記 高瀬、映写 江村、メモリー記録 中川、受付 照明 森下、宮崎の各氏

■出席者：江村、岡本、上総、紙本、合原、進藤、関、高瀬、坪井、中川、華岡、宮崎、森下、山本の14氏
堀氏は作品のみ

【上映作品】（書記は高瀬氏）



1. ザイオン国立公園 B D

華岡 汪 12分 2秒

（作者コメント）

ザイオン国立公園はアメリカでは、グランドキャニオンに次ぐ人気の国立公園。壮大な景色と初心者から上級者まで満足できるトレイルがあり、大自然の中にいるという実感が得られるといわれている。

（書記コメント）

大自然が造り出した壮大な奇岩の映像に圧倒される。

2. 大塚国際美術館「オランダ絵画」 B D

中川良三 11分 9秒

（作者コメント）

2018年11月にバスツアーを利用して大塚国際美術館に行った時の映像。大塚国際美術館は世界中の絵画を陶板に焼きつけている「陶板絵画」で有名です。パンフレットに「オランダミュージアムマップ」という見出しでオランダの代表的な美術館と絵画の紹介がありました。そのパンフレットの内容を映像化してみようと取り組んだ作品です。

（書記コメント）

オランダの有名な絵画を中心に丁寧なナレーションで紹介されている。ただ絵画のバックにゴッホの似顔絵が描かれた同パンフレットばかり使われているが、ひと工夫ほしい。



3. 楠の巨木に神宿る B D

紙本 勝 10分 55秒

（作者コメント）

日本では縄文杉が有名ですが、近畿地方にも2000年の樹齢を誇る木も存在します。そこで大阪市をはじめ7府県のうちの生命力の偉大さが体感できる巨樹の探訪を試みることにしました。

（書記コメント）

「巨樹の探訪」という新しいテーマを探し、挑戦される姿勢に感服です。



4. 桂林 DVD

山本正夢 9分 49秒

（作者コメント）

アーカイブス第2作。桂林は3回ほど訪ねましたが、ビデオカメラ持参は今回の1回だけです。中国の変化は激しく当時はまだ古い中国が残っていました。

（書記コメント）

いつもの事ながら、風景だけでなく、その土地の人々の暮らしや表情をよく描写されている。



5. 山城と石仏と B D

江村一郎 8分 10秒

（作者コメント）

大和高取城は標高583mに築かれた天然の要害です。天守をはじめ主要建造物は明治6年廃城のあと取り壊され石垣のみが残る。壺阪寺側には城



主本多氏が城を修復の際に石工に刻ませたと伝わる大規模な石仏群がある山城です。

(書記コメント)

威容を誇った高取城跡を隈なく描かれている。特に後半の岩に刻まれた哀れを誘うような石仏が印象的。

6. 2020年8月 京都夏の夜 BD
高瀬辰雄 8分03秒

(作者コメント)

コロナ禍でさまざまなイベントが中止となる中で、規模や時間を縮めて、行われた神事や行事もありました。そんな中から8月の夏の夜の北野天満宮「京の七夕」、壬生寺「六斎念仏」、「大文字の送り火」、嵐山の「花火」を撮影、まとめました。



7. 晶子桜植樹祭 BD
上総秀隆 9分20秒

(作者コメント)

堺で育成された桜の新品種が「与謝野晶子」と名付けられ、ゆかりのある各地に植樹されている。歌碑のある石津神社（堺市堺区）でも2019年11月に植樹祭が開催された。



(書記コメント)

晶子桜の植樹祭の様を丹念に撮られており、植樹祭の流れがよく分かる。

8. 甦ったあの日の記録 BD
堀 皓二 4分52秒

(作者コメント)

物置から1本の8ミリフィルムが出てきた。55年前の結婚式の貴重な記録でした。これを観て想いを新たにしました。



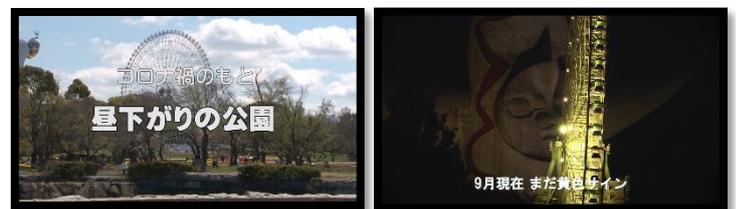
(書記コメント)

フィルムを見つけるシーンと編集した映像を二人で見ている最初と最後はさすが堀さんならではの構成。ピンボケやカメラを振り過ぎの古い映像が逆に情感あふれる効果をもたらしている稀有な作品ではないでしょうか。

9. コロナ禍のもと昼下がりの公園 BD
進藤信男 8分54秒

(作者コメント)

コロナ禍による外出自粛が始まって半年、みんなそれぞれに退屈感が見えてきたこのごろ。他府県など遠方への撮影は外出自粛の連続で難しくなってしまった。この期間には普段には作れない何らかの作品も必要に思えてきた。



春の桜の時期に始まっていた事を思い起こし、広大な広場で市民が憩いの場になっている万博公園を訪れてみた。エンターテイメント行事はすべて中止。自然豊かなこのスペースでは、マスク姿はあるものの子供たちものびのびと遊んでいる姿と自然に親しむ人々が居た。これからどんな生活をしていくのだろうか。昨今ではもう前の生活には戻るのではなく New Lift Stile、New Normal の言葉に抵抗感がなくなってきたように思えてきた。むしろ真剣に考える必要性すら感じてきた。

人間は集まることにより都市を作り、自然を改造することにより発展してきた反動として自然が持つ浄化力をなくした等といわれてもなかなか理解出来ず、むしろ頼りたくなる願いがこみ上げてくる。三密対策など個々人の務めを果たしながら、何とかコロナワクチンが開発され終息させる手立てが一日も早く訪れることを願うばかりだ。

制作に際して、あまり利用してこなかった編集ソフトウェアのいくつかのエフェクト処理利用に取り組んでみた。

(書記コメント)

のどかな昼下がりの公園の映像がコロナウィルスの怖さとのギャップがある意味、印象的な作品。

9月第2例会レポート

9月第2例会は第3木曜日17日13時より難波市民学習センターにて開催。いつもの第4研修室とは違った部屋で、机の並べ方が大幅に異なり少し戸惑ったが、早く来た会員諸氏の手助けで素早く準備が整った。外はまだ残暑があるが会場は冷房が効いていて肌寒いくらいの感じ。コロナの影響か出席者は12名にとどまったが、作品は8本が出品され、まずは楽しいひと時を贈ることが出来た。今月の司会担当は合原氏。

■運営担当：司会 合原、書記 紙本、映写 中川、メモリー記録 江村、受付・照明 宮崎、森下の各氏

■出席者：植村、江村、岡本、紙本、合原、進藤、関、高瀬、中川、宮崎、森下、山本の12氏

【上映作品】（書記は紙本氏）

1. 堺の百舌鳥八幡宮秋祭り

BD

中川良三

9分56秒



「作者コメント」

ふとん太鼓は神輿の部分が、綺麗な朱色の座布団を5段重ねた造りで、高さは約4メートル、重さ約3トンあって、約70人で担ぎます。中央部には小学5、6年生の男子が太鼓を叩いて囃子歌を歌い、70人の大人が掛け声をかけながら担ぐ雄姿は圧巻です。

映像は10年前のもので、カメラをハイビジョンからフルハイビジョンに移行した時期のもので「宮入」がハイビジョン、「宮だし」がフルハイビジョンです。

<書記コメント>

300年以上の歴史があって勇壮華麗なふとん太鼓で有名な祭りの作品ですが、大勢の観客で撮影には苦労をされた事と思います。「宮入」から「宮だし」までを追われており、神輿と担ぐ人担ぐ人、大小のふさの揺れなど迫力があり、今少しアップのカットが欲しいところですが、秀作だと思われました。

2. 豊橋鉄道田口線

BD

紙本 勝

9分30秒

「作者コメント」

最終地点の清崎駅からは田口駅まで溪谷沿いにあるトンネル6箇所など5Km余りを歩く予定がダム工事の進行で通行止め、バスで迂回して田口の町から3.5kmを歩き田口駅跡に到着、ダム工事の現場も撮影が出来て何とか目的が果たせました。



3. 高取城まつり

BD

江村一郎

8分08秒

「作者コメント」

近鉄吉野線壺坂山駅から近くの土佐街道（遠く土佐から都づくりに来た由来から）にそって行われる高取城まつり。城下町らしく火縄銃の実演や数々のイベントがありました。ちなみに今年の祭りは早々と中止が決まっているそうです。



<書記コメント>

日本3大山城の一つ高取城下の祭りは火縄銃・玉すだれ・居合い術・和太鼓・殺陣演技・踊り・時代行列など多彩の様で、その全てが作品に盛り込まれており、町の祭りでの賑わい共々精力的に撮られたことにまず感心しながら祭りそのものがよく判り楽しませて貰いました。

4. 静岡ぶらり旅

DVD

合原一夫

10分07秒

「作者コメント」

いつもは新幹線で通り過ぎる静岡だったが、10月の秋には祭りも多く見所一杯あるところだと、観光案内につられて二泊三日のツアーに参加した。茶畑、動く蒸気機関車、大井川の木造の橋、島田鬮まつり、村越町の素朴な祭り、そして圧巻は手筒花火であった。これらの楽しかった旅の記録を私の紀行文的まとめ方で作った作品である。



<書記コメント>

静岡県内のあちこちをよく巡られたものだと思いますらツアーに参加されたそうでした。ところがツアーでの撮影はなかなか思う様には行かないものですがそこはベテランのこと、要所を抑えられているようで、川を前景にした手筒花火は作者のコメント通り圧巻で、旅の終わりを締めくくっておられました。

5. 黒部 トロッコ鉄道に乗って B D

進藤信男

12分20秒

「作者コメント」

黒部ダム見学では、長野県大町から入りダムを見学して、雪のトンネルが残る立山に抜けた。今回は、新緑深い富山県宇奈月からトロッコ列車「黒部峡谷鉄道」に乗って「鐘釣」まで。終点の櫛平までは行けなかったが日本一深いと言われる黒部峡谷を縫うように走るトロッコ電車は、沿線の新緑を満喫させてくれた。その傍らで、よくぞこんな峡谷に軌道を敷いたという感慨にふけるのだった。

大正時代に始まり、昭和36年送電開始した黒四地下発電所。文字通り、日本の戦後復興の原動力となったダムと発電所群。難工事のため中断を繰り返しながら実現させた人の知恵と努力、工事殉職者171名500mに亘る166℃の高熱岩盤、大町側トンネル工事での大量の湧水。最上部に建設されている第四地下発電所。自然が織りなしてくれる渓谷美にひたっているだけでは留まって折れない。こんな衝動に駆られるのは私だけだったのだろうか。



<書記コメント>

メモに一眼レフによる初めての作品です、とありますが北アルプスの名峰に囲まれた国内屈指の秘境で、深山幽谷の印象がある黒部峡谷を走る列車そしてダムを楽しまれた作品を見せて貰い、旅をした気分になりました。

6. 三峽クルーズ B D

山本正夢

12分21秒

「作者コメント」

コロナと暑さで家に居る時間が多くなり昔のテープを再編集しました。最近の大雨で三峽ダムの危機が伝えられましたが私の訪れた時は工事の最中でした。



<書記コメント>

三峽とは、瞿塘峡・巫峡・西陵峡で三国誌の舞台になった遺跡などがあるとか作品は荊洲の街に始まり葛州ダム閘門、三峽ダム閘門工事中、渓谷めぐりと展開されますが、既設の閘門は勿論工事中の閘門の規模が大阪の毛馬の閘門とは比べものにならない大きさである事などが判りました。完成の現在は様子が全く違うのですが、危機的な洪水に見舞われた様ですね。

7. 日向 ひよっこ 夏祭り【改作】 B D

岡本至弘

5分48秒

「作者コメント」8月例会の作品を改作しました。

現在、「動画配信プロジェクト」としてYouTubeで放映されています。



8. いずれがあやめ 杜若 花菖蒲 B D

高瀬辰雄

5分47秒

「作者コメント」

京都・梅宮大社神苑に咲く、あやめ、杜若、花菖蒲を撮影。

スライダーのテストをかねて撮りましたが、三つの花の違いがよく分かりません。特に杜若花菖蒲の違いは分かりにくいです。

<書記コメント>



三者の見分け方を一般の人に尋ねたとしたらおそらく90%位は分からないと答えるのではないのでしょうか。ネットで調べると、あやめは花びらに網目模様があり、杜若の主脈は細く白の剣先模様、花菖蒲は主脈が太く黄色の剣先模様があるので簡単に見分けられという。それはともかくとして神苑に咲いているのを見るとどれも素晴らしく、とても優雅で甲乙をつけがたいものです。それをしつとりとした雰囲気に撮られており、特に雨に濡れる場面は情緒が感じられる作品でした。